

REVITALIZE MANUFACTURING

再興！日本のものづくり

かつては工業立国と言われた日本。今、デジタルトランスフォーメーションの波が押し寄せる中で、中小企業の変革力が鍵を握っている。そんなものづくり企業の成長を後押しする取り組みを行っている方々取材するシリーズの第一弾。

TEXT BY SHU TAKEHANA

TEXT&LAYOUT& DESIGN BY MIKI SUGIMOTO

Vol.1

公益財団法人大阪産業局 大阪産業創造館 [前編]

大阪産業局の取り組み

角淵： こんにちは。角淵です。本日はよろしくお願ひ致します。早速ですが、大阪産業創造館についてあらためて教えて頂けますでしょうか。

田邊： 大阪産業局の田邊と申します。本日はどうぞよろしくお願ひします。大阪産業創造館は実は建屋の名前でして、組織名は公益財団法人大阪産業局です。2019年に大阪市と大阪府の公益財団法人が合併して今の形となりました。大阪の中小企業を支援する役割を担っています。

大手企業と違って中小企業はヒト、モノ、カネ、情報と経営にあたってリソースが不足しています。こちらではそれを補う様々なプログラムを提供しています。例えば、マネジメント、マーケティング、創業、人材、それから私の所属する製造業といった領域ごとにチームがあります。また、中小企業診断士が常駐しており経営相談が無料で受けられたり、行政書士や司法書士、弁理士、公認会計士、税理士、弁護士といった、各種専門家にも無料相談できるなど、支援体制を充実させております。また、支援の拠点としては、大阪産業創造館以外に、ベンチャー支援の拠点「大阪イノベーションハブ」(梅田)、IoT・ロボットテクノロジーを用いたビジネス支援の「ソフト産業プラザ TEQS」(大阪南港)、「ものづくりビジネスセンター大阪 (MOBIO)」(東大阪)があります。

特に注力しているのが展示会企画運営で、大阪産業創造館の3、4階を展示場として、月に1~2回程度開催しています。中小企業が出展社となり、販路拡大の場を創出しています。

角淵： そうすると年間何回ぐらいの実施になるのでしょうか。

田邊： 約20回程ですね。それに加えて、今回角淵さんに講師をお願いした「大阪DX推進プロジェクト」のような連

続講座や現場改善、原価管理、品質管理といった企業のニーズが高いテーマのセミナーを実施しています。

角淵：なるほど。因みに出展費用はどのくらいですか？

田邊：4万円程度です。民間の展示会出展費用と比較するとかなり安いと感じられると思うんですけども、出展社の負担にならない価格設定にしています。

角淵：何名ぐらいで来場されるのでしょうか。

田邊：近年は感染症対策の影響で、来場定員数を設けて運営しておりますが、それでも2日間で約1000名の方にお越し頂いています。

角淵：すごいですね。告知はどういった手段をとられてるのでしょうか。

田邊：約6万人が登録しているメールマガジンが主となります。あと大きいところでは、大阪メトロの中吊り広告ですね。他にも各関係機関とうまく連携しながら集客を行っています。また、隔月で発行しているフリーマガジン「Bplatz press」(ビープラッツプレス)があるのですが、取材も我々で行うんです。展示会テーマとリンクさせた特集内容を組むなど、展示会誘導につながるような告知を行っております。約3万部発行していて、地下鉄の駅や区役所、図書館、金融機関の窓口、大学の就職課などに置かせて頂いています。

角淵：そうなんですね。私も他の地方都市を仕事で訪れる機会が多いのですが、産業支援センターというと割と郊外にあったりして、イベントの際の集客にはかなり苦労されるんじゃないかなと思うことがあります。しかし、大阪産業創造館様は地下鉄の駅のすぐ近くでアクセスが良いですね。まさに大阪のど真ん中といったところですね。

田邊：はい。来やすいというお声はよくいただきます。そこはメリットだと感じている部分です。

民間企業出身スタッフが発揮する多様性が強み

田邊：実は私自身が中小企業出身なんです。

角淵：そうなんですか。

田邊：この組織が面白いと感じるのは、元々民間企業にいた人材が多く在籍していることです。多様な経験やバックグラウンドを持つ人が集まっているので、我々の強みはそこに

あるんじゃないかなと感じています。

角淵：たしかに今回のセミナーのテーマについてご相談した際に、田邊さんがこちらのお話を私事のようにご理解頂けて、非常に具体的な姿勢だったことに正直驚きました。また、かなり込み入ったところまで話をされるので、何かものづくりをしておられたのかなと思っていました。

田邊：いえ、広告業出身なので、製造業に関して全て分かっているわけではありません。ただ、前職のお客様が大手メーカーで、研修資料の作成まで任せて頂いておりましたので、技術レクチャーを受ける機会は多々ありました。それがあつたお陰で、ある程度なら理解しているつもりです。このように、前職の経験や人脈もフル活用しながら企画運営を行っています。例えばセミナーというと、どうしても頭でっかちな理論ばかりをお伝えするだけになってしまって、結局受講者としては「そんな教科書的なこと聞きたくないよ」みたいな気持ちに陥ることもあると思うんです。そこを理解しながら、もう一步踏み込んだ企画ができる、というのが他の支援センターとの大きな違いだと感じています。

製造業のDXを実現する上で共通する課題

角淵：今回のDX講座に関するご相談をした際、田邊さんは中小企業側の課題となるポイントを鋭く突かれましたね。それというのは、ロボットシステムを導入しても、「期待していたのはこうじゃなかった」というようなやりとりがSierとの間で行われ、結局失敗するというケースが少なくないというお話で、そうした食い違いが少しでも無くなるような講座内容にしたいと最初に仰ったんです。

田邊：はい。我々は多くの企業訪問をするので、経営者のいろんなぼやきを聞きます。その蓄積の中で、今仰ったような課題のイメージが掴めていきました。

また、実は去年行われたセミナーでも似たようなことを行っていて、メーカーとシステム会社が協業して生産管理のアプリを作った際に、お互いの要求が噛み合わないところをどうクリアしていったかという話でした。なので、DX推進の問題はそこだろうと思ったわけです。

角淵：なるほど！



▲フリーマガジン「Bplatz press」をご紹介頂く田邊様(写真右)、角淵(写真左)

ACCESS

大阪産業創造館のご案内



公益財団法人 大阪産業局 大阪産業創造館
住所： 〒541-0053 大阪市中央区本町 1-4-5
大阪産業創造館 13F
お問合わせ総合窓口： 06-6264-9800
公式 HP： <https://www.sansokan.jp/>



Yohei Tanabe

田邊 暢平 (たなべようへい)

公益財団法人 大阪産業局
大阪産業創造館 ものづくり支援チーム

▲今回、「大阪 DX 推進プロジェクト」にて角淵が講師を務める連続講座「ものづくり DX・生産システム基礎編 (全3回)」「導入編 (全2回)」が開催されたことから今回の対談が実現した。田邊様 (写真右)、角淵 (写真左)

私はロボット導入における要件定義の部分に関わるプロフェッショナルなのであえて申し上げますが、中小企業できちんと要件定義を行える企業はなかなかありません。しかし、Slerとしてはそこがっちり噛み合わないとうまく進められない部分です。そこが整理できないまま進むがために結局 Sler 任せということがあります。そして、完成品を見てみると「要求と違う！」と依頼主側で感じてしまっていて、関係性すらこじれるケースがあります。

田邊： はい。中小企業の多くは社内に IT 人材が不足しているのと、IT リテラシーが相対的にあまり高くないので、うまく伝えられないということもあると思います。それに Sler の提案自体の評価が難しいという問題もあって、イメージが漠然としているあまり、値段を言われて「え、そんなにするの？」と感じられたりとか。仮にそういった感覚のまま進んでしまうと、もっと早い段階で折衝すべきところが後々湧いてきてしまっていて、本来は必要のない Sler への不信感にすら陥ってしまう可能性もあると思うんですね。そこは解消しないと両者にとって絶対に損で、逆に言えばそこを少しでも解消できれば、中小企業の DX 推進をサポートできるという思いで企画させて頂いたのが今回の DX 講座でした。

INTERVIEWER PROFILE インタビュープロフィール



Hirokazu Tsunobuchi

角淵 弘一 (つのぶちひろかず)

株式会社オフィスエフエイ・コム 西日本事業所所属

本年経産省が推進する DX 政策に関連し各自治体が主催するセミナーに講師として複数登壇。30 年以上大手 FA 機器メーカー (㈱キーエンス) に所属し、FA 機器の企画開発に従事。製造業の IoT 化やトレーサビリティを実現する機器のマーケティング・商品企画・システム構築が専門分野。また大手モーターメーカーにも所属し DX 化を提案し進めた経験を持つ。

現在、半導体業界国際規格団体 SEMI (Semiconductor Equipment and Materials International) の国際標準化規格委員でもあり、日本地区トレーサビリティ委員会の共同委員長を 15 年間務めている。昨今の半導体不足問題による半導体サプライチェーンが注目を浴びている中、半導体サプライチェーンを管理する国際規格作成においては作成グループのリーダーを務めている。アメリカの規格委員とともに国際規格開発を中心的に進めている。半導体サプライチェーン管理や模倣品対策においても数多く登壇。

INFORMATION

製造業、経営者、起業家向けのコンテンツが満載！ 大阪産業創造館のセミナー・イベント情報を配信するメールマガジン

<メルマガ登録用QRコード>



それぞれ無料で登録できます。まずは下記 URL にアクセス！
<https://www.sansokan.jp/mlmg/>
※ご登録にはユーザー登録が必要です。

Mail Magazine [FA.COM]

メールマガジン [エフエイコム] にご登録下さい！

FA.COM では定期的にメールマガジンを配信しております。自社ニュースから、「やさしく学ぶロボット導入」(第1巻～) CEO 対談特別記事など、様々な話題をお届けし、大変ご好評を頂いております。

お申し込みは下記登録専用フォームお申し込み頂けますので、ご興味を持たれた方は是非この機会にご登録下さい。

メルマガ登録専用フォーム：

<https://forms.gle/MyWvDR4wgyanQEtZ8>

<メルマガ登録用QRコード>



Follow us!! お気軽にフォロー♪

製造業の未来を盛り上げる各 SNS も運営しています。

株式会社オフィスエフエイ・コム

株式会社 FA.Regalo (FA.COM グループ広報マーケティング支援)

住所： 〒105-0004 東京都港区新橋 5 丁目 35 番 10 号新橋アネックス 2 階

TEL： 03-5860-1647

FAX： 03-5860-1648

FA.COM HP： <https://www.office-fa.com/>

FA.Regalo HP： <https://fa-regalo.com/>

Facebook
@OfficeFAcom

Twitter
@OfficeFAcom

Instagram
@officefacom.official

E-mail でのお問い合わせはこちら： contact@fa-regalo.com (担当：杉本)